

～ サーバと蓄電システムのセットで安全・安心なオフィスを!! ～

# FUJITSU Server PRIMERGYと蓄電システムFPSSシリーズの組み合わせによるBCP(業務継続計画) 提案

## ◆ 現状の課題

- 事務所で使用しているサーバにUPSを接続しているが、停電が発生した場合には、すぐにシャットダウンが走り、重要な業務やサービスを中断せざるを得ない。
- サーバ以外に、ネットワーク機器や電話/複合機など、業務継続に必要な装置の電源確保も必要。
- データバックアップ中の停電や瞬断に対処できず、データ消失が心配。

## ◆ 解決策

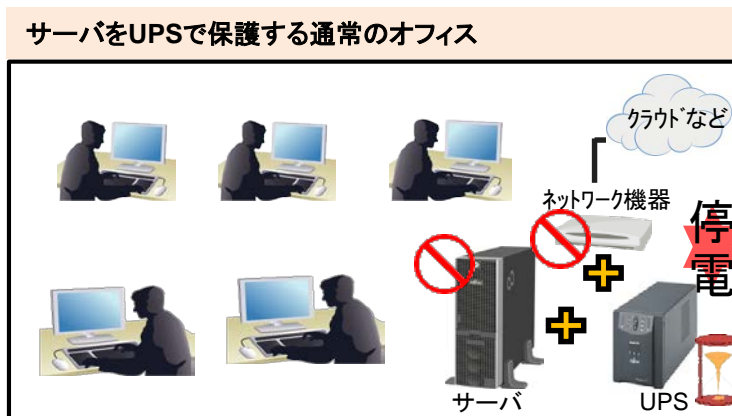
- PRIMERGYやネットワーク機器と蓄電システムを組み合わせることで、長時間の停電時でも重要業務やサービスの継続運用が可能になります。
- データバックアップ中など、短時間の停電のためにシャットダウンせずに運用を継続可能になります。

## ◆ 導入効果

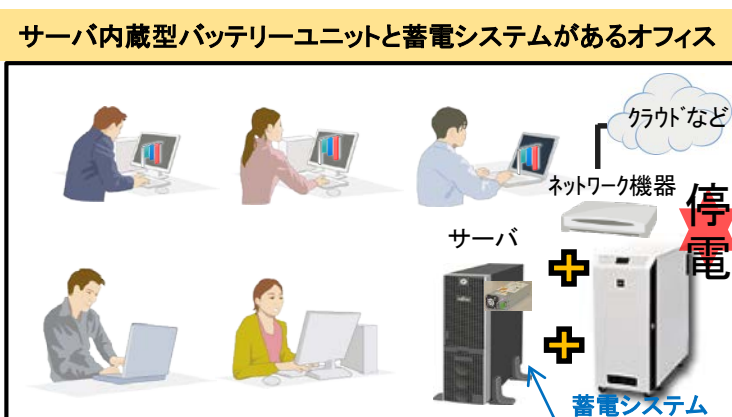
- 停電発生の際のリスク回避と業務の継続が同時に実現できるようになります。



電源確保はBCPの要!



停電が発生した場合、  
短時間でサーバ・ネットワーク機器  
がシャットダウンしてしまうため、  
外部との連携が必要な  
業務が停止!!



サーバ内蔵型バッテリーユニット(FJBU)を  
搭載したPRIMERGY

長時間の停電が発生しても  
サーバ・ネットワーク機器が  
停止せず、外部との連携が  
必要な業務の継続が可能に

# ■ UPSと蓄電システム(FPSS-242G)のバッテリー駆動時間と接続構成の比較

## ■ バッテリー駆動時間の比較

(サーバが消費電力400VAで稼動した場合)

サーバ

出力定格1000VAのUPS

サーバ

出力定格1000VAの蓄電システム

約20分

停電

商用  
100V

約5時間

停電

商用  
100V

## ■ 接続構成の比較

(注意)本資料でご紹介する蓄電システムFPSSシリーズの出力定格容量は1kVAになります。蓄電システムに出力定格が1kVAを超えるUPSを接続した場合でも1kVAが上限になります。

サーバ

UPS

負荷機器:最大1kVA

蓄電システム

照明

ネットワーク機器

電話

サーバ

FJBU  
(注1)

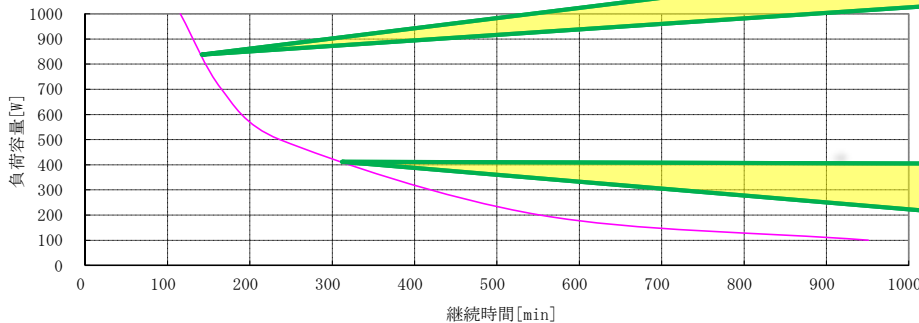
接続対象は基本的にサーバ(1~2台)のみ

サーバ(数台)の他、ネットワークやオフィス機器も含めてバックアップ!! ⇒ 拡張性大

注1: FJBUは、サーバ内蔵型のバッテリーユニットです。

## ■ 接続負荷に対する継続時間のグラフ

蓄電システムFPSS-242G  
継続時間に対する負荷の推移



PRIMERGY TX1330 (最大203W) なら、1台の蓄電システムで4台(計812W)まで接続可能になり、約150分継続運転が可能になります。

PRIMERGY TX1330 (最大203W)とネットワーク機器、電話、照明などの消費電力の合計が400W なら、約300分(5時間) 継続運転が可能になります。

※負荷容量は力率1の時  
FPSSの液晶モニターで負荷容量(W)を確認できます。(目安)

- サーバ内蔵型バッテリーユニットを搭載したPRIMERGYは、蓄電システムのバッテリー残量がなくなった場合でも管理ソフト(無償添付)が自動的にサーバをシャットダウンするため、安全安心なサーバの電源管理が行えます。
- 蓄電システムにはスケジュール運転機能があり、昼間の電力使用が集中する時間帯のピークシフトや教務時間に合わせた運用が可能になります。